

## 令和4年度第1回岐阜県リニア中央新幹線活用戦略 ブラッシュアップ懇談会 議事要旨

1. 日時：令和4年11月25日（金） 10：30～11：45
2. 場所：岐阜県庁4階 特別会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
涌井座長、青山委員、内田委員、上手委員、田中委員、村瀬委員  
(コメント提出) 加藤委員、真田委員、森川委員
  - (2) 県  
知事、都市公園整備局長、都市公園整備局副局長、リニア推進室長、  
商工労働部次長、観光国際局副局長、林政部次長、県土整備部土木技監、  
地域振興課長
4. 議題  
リニア活用戦略ブラッシュアップについて
  - (1) 第2次リニア活用戦略（案）について
  - (2) 4つの新たな施策の具体化に向けた検討組織について
5. 議事要旨

### 〈第2次リニア活用戦略（案）〉

- ・第2次リニア活用戦略（案）は、論理的に整理されている。
- ・「女性や若者に魅力ある地域づくりや優秀な人材を輩出する教育」、「農業、環境、観光の良い循環による総合的発展や開発と規制のバランス」、「濃飛横断自動車道の全線開通や国道41号の強靱化」の必要性が整理されている。
- ・将来的には、女性や若者、特に首都圏に集中するIT技術者、クリエイティブ人材が岐阜県での就業を可能とする地域づくりが必要。
- ・リニア中央新幹線は新たなインフラであることを踏まえ、今後、景観全体、都市づくりという観点も含めたまちづくりを検討することが大変重要。
- ・デジタル化の進展等により、社会のシステムが大きく変容することが見込ま

れる中、新たな社会インフラのあり方も視野に入れた方が良い。

- ・リニア岐阜県駅は観光客向けの高速バスなどの拠点として、飛騨方面へのアクセス路線だけでなく、県内主要観光地へのアクセス路線の整備が必要。
- ・ビジネス向けとして、リニア岐阜県駅のパーク&ライドの充実によって、リニア名古屋駅や他の競合駅との差別化を図ることが可能ではないか。
- ・リニア岐阜県駅は二次交通、長距離バスなどの利用が見込まれるが、現状の駅周辺整備計画では、そのような機能が不十分であり、充実が必要。
- ・リニア岐阜県駅から飛騨方面へのアクセス確保のみならず、東西方面への巡回バスの検討も必要。
- ・今後、地元としての取組み、岐阜県としての広域的な取組みを推進していくうえで、地元と県の情報共有及びより綿密な連携が必要。
- ・これまでのスーパーメガリージョン構想は地方から巨大都市へ資源をシフトすることで生産性を維持するものだが、リニア中央新幹線によって、岐阜県の資源が吸い取られることを懸念。
- ・岐阜県の吸引力は、利便性よりも豊かな自然に情報、交通ネットワークを組み合わせ、そこにリニア中央新幹線を追加するといった逆転の発想が必要。
- ・リニア中央新幹線は国土、国家にどのように適応させるのかが先行していると思われるが、地域自体が地域にどうなじませるか考えざるを得ない。

#### 〈4つの新たな施策の具体化に向けた検討組織〉

- ・「岐阜県らしいリニア駅・周辺整備検討会」について、リニア岐阜県駅は非常に巨大な構造物であり、地域の分断を招かないよう、いかに地域になじませるのが課題。
- ・リニア岐阜県駅周辺整備に向け、二次交通や技術革新を見据えた新モビリティの導入や、リニアの発着時間外における駅周辺の有効活用の検討も必要。
- ・「地域を担う人づくり検討会」について、地域の課題の解決にあたっては、持続可能性の観点から解決策を考えることのできる人材の育成が重要。
- ・「森のまちづくり構想実現WG」について、リモートワークが普及しても、

対面が必要な仕事も存在するため、アフターコロナ時代はオンラインとオフライン（リアル）両方の特性を踏まえた働き方が重要。

- 「環境に配慮したまちづくりWG」について、目指すべき地域像を設定し、農業、林業、観光等の良い循環が必要なことを認識してもらうための取り組みが必要。
- 4つの検討組織の取り組みは密接不可分であるため、4つの検討組織の位置づけを明確化したうえで、一体的な運用が必要。